

宮島包ヶ浦自然公園利活用方針 説明会を開催します

これまで宮島包ヶ浦自然公園の今後の利活用に向けて、宮島の関係者の皆さんと協議を重ねるとともに、幅広い意見を集約するためにワークショップを開催しました。また、包ヶ浦地区で活動する自然活動団体や、自然・観光分野に関わる団体等の意見を伺い「宮島包ヶ浦自然公園利活用方針」をまとめましたので、説明会を開催します。

第3回

日時：令和7年4月14日（月）18:30～20:00

場所：大野東市民センター多目的ホール
（宮島口東二丁目12番5号）

第4回

日時：令和7年4月16日（水）18:30～20:00

場所：さいき文化ホール
（津田4218）

※両日とも同一の内容となっていますので、ご都合の良い日時にご参加ください。
なお、申込は不要となっていますので、当日直接会場へお越しください。



主催・問い合わせ：廿日市市産業部観光課（☎0829-30-9142）

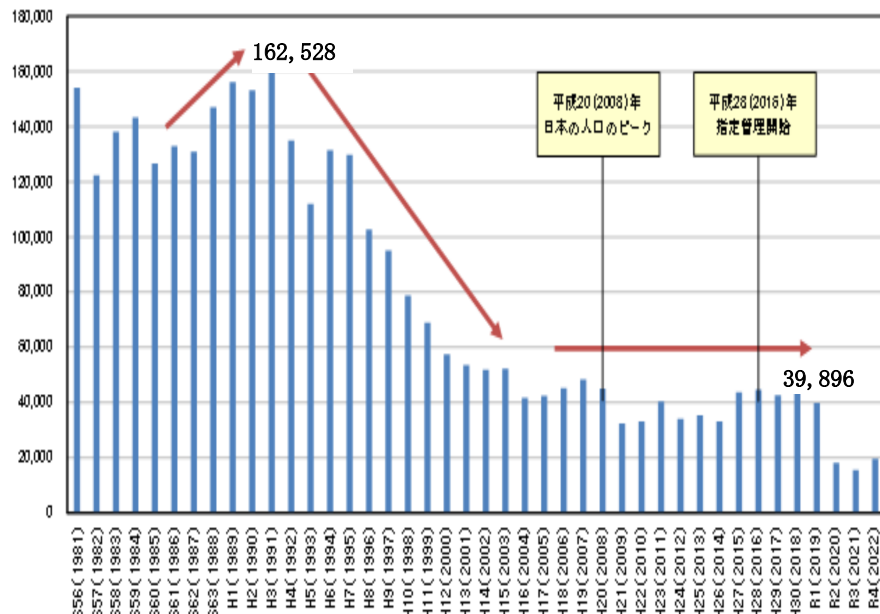
ポイント1. 包ヶ浦で何が起こっているのか

包ヶ浦自然公園は、昭和50年代に、ケビンや海水浴場、キャンプ場などを整備し、夏を中心に多くの利用で賑わっていましたが、近年の利用者はピーク時の1/3を下回る状況となり、施設の老朽化に加え、運営収支は開設当初から赤字であるなどの課題があります。

その対応策として、これまで市が示してきたのは、包ヶ浦自然公園の一部エリアにおいて、事業者を募集・選定し、その資金とノウハウによって、地域と一体となって包ヶ浦自然公園全体の持続可能な管理運営をめざす「高付加価値旅行者向けの宿泊施設」の誘致です。訪日外国人旅行者や、多様な観光需要に対応した施設ができることにより、市には借地料や固定資産税等の新たな収入が入り、市の財政負担が軽減され新たな事業展開が出来るとともに、宿泊・滞在により、観光消費額が増加し、地域経済の波及効果も期待できます。

こうした理由から、市では、これまで検討してきた高付加価値旅行者向けの宿泊施設の誘致が効果的と考えてきましたが、地元の地域代表で構成する利活用検討協議会の中で、既存ケビンのリニューアルをはじめ、グランピングやオートキャンプ場等でも、一定の収益が市の財源として確保できるのではないかと意見があり、この度まとめた利活用方針において、幅広く施設提案を求めることにしました。

包ヶ浦自然公園の利用者数の推移



ポイント2. 自然を再生・保全します

これまでの市の考え方に対し、「宿泊施設が整備されることによって自然が破壊され環境が悪化する」といった声をいただきました。しかし、施設が整備されるエリアは、現在、既にケビン等が立地している場所を考えており、新たな山林開発を伴うものではなく、さらには、宮島特有の厳しい法規制のもと許可されることになるので、自然環境に影響を与えることはないと考えています。

市は、包ヶ浦自然公園全体を緑豊かな場所に再生していく方針です。というのも、包ヶ浦自然公園は、かつて樹木が生い茂り、風光明媚な観光資源として賑わっていました。しかし、現在は、長年の風雨により樹木は減少し、多様な生物が生息する池には砂がたまり石垣は崩れるなど、公園全体の再整備が必要となっています。

今後、自然散策にふさわしい風景となるよう植樹等を進めることで、旅行者のみならず、日々の散策で訪れる地域の方々の憩い・癒しの場として充実させていきます。

また、汽水池の保護やシバナ保護等の活動を官民一体となって行うなど、環境学習や自然学習などを実施する環境を整え、各種アクティビティの場として活用していきます。

さらに、自然保護活動団体等と協力し、環境学習や生物の観察ができる自然学習などを実施する「ネイチャーセンター機能」などの環境を再整備するように考えています。



石垣の崩壊



既にケビンなどが立地している場所



自然保護・学習活動の推進、汽水池等の石積みの修復、植樹による樹木の再生、散策路の整備など、緑豊かな自然・レクリエーションの拠点として整備します